

ふるさと



紙魚のつぶやき

広瀬秀著

# 「津軽人物 グラフィティー」

## の紹介

津軽、弘前の人物をインターネットで調べると、必ずと言っていいほど本著者、広瀬秀氏のブログに辿り着く。「広瀬院長の弘前ブログ」だ。

「グラフィティー (graffiti)」は、大辞林で見ると「落書き。いたずら書き。」とある。巻頭の「はじめに」でも「グラフィティーとは落書きのことであり、ここで取り上げた人物についても評伝というよりは、思いのままの事柄を雑然と並べた。文脈がとりとめもなく、読みにくいと思うし、弘前出身の方でないといけない点もある

らだろう。紹介した人物は、特別歴史に残るような偉大な仕事、業績をあげた人物ではなく、いわば市井の人物と考えても良い。こういった人物については、子孫以外あまり興味はないかもしれないが、それでもこういった人物が昔いて、時代にもまれながらも懸命に生きたことは史実である。」とあり、本書の概略が語られていく。落書き故か、(津軽)華子妃殿下のお相手が、常陸宮ではなく秩父宮となっているのは愛嬌か。

取り上げられている人物を羅列すると、坂巻銃三郎・駿三親子、テッド青木・ハリイ青木兄弟、白戸八郎、前田光世、須藤かく、兼松石居、兼松しほ、山鹿旗之進、平田平三、笹森卯一郎、本多庸一、木村藹吉、佐藤弥六、岡村チエ、岩田平吉、佐藤愛鷹、珍田捨巳、頼、先祖が弘前藩士だった

佐々木五三郎、吉野太郎一、郡場寛、榎引武四郎、佐藤慎一郎、山田兄弟(良政、清彦、純三郎、四郎)、弘前藩の数学者・攻玉社、弘前藩出身の新選組隊士、津軽藩と錦風流尺八。弘前藩の数学者以降の章は、携わる複数の人物紹介となっている。

ともかくにも、記載されている人物の多さには驚嘆する。正確ではないが調べた数は670人余に上る。もちろん津軽の人物が中心だ。親兄弟、先祖、子孫……。広瀬氏は、兵庫県の出身でありながら、実に弘前に関わる人物に、関心を持ち続けている。氏のブログによると、平成7年に妻の実家のある弘前で矯正歯科を開業とあるから、弘前に居住して20年余。ブログを始めたのが平成19年。弘前を永住の地として愛し、この地の先人達をよくぞこまめというほど調べる。ブログが発端かと思われ、郷土史関係の講演依頼、先祖が弘前藩士だった

人からのメール、作家、大義塾での授業はすべてアメリカの教科書を使って行われていたようで、今はやりの大学の国際学部の内容」

また、広瀬氏著「明治二年弘前絵図―人物と景色を探して―」(2011年)、探して―」(2011年)、「新編 明治二年弘前絵図―人物と景色を探して―」(2014年)が、人物特定のキーワードとなっている。

東奥義塾出身者の記載が圧倒的に多い。驚きとともに、東奥義塾の果たした役割の大きさを痛切に感じる。「明治期、東奥義塾からアメリカの大学に留学したものは四十名、(中略)弘前の若者は東京大学を頂点とした学閥官僚システムに乗るよりは、いきなりアメリカを目指した」

我が県人会に関する記載もあり興味を引く。大正6年のこととして、東京青森県人会の前身、青森県修交会での珍田捨巳と一戸兵衛のユーモラスなエピソードが紹介されている。

「卒業後、毎年数名、アメリカのアイビリーリーグの学校に留学し、一年目からアメリカの学生を押しつけて優秀な成績を取り、博士号をとってくる、(中略)」

「明治初期の地籍図」の考察がある。250年、150年ぶりに見つかったものとのことだ。

個人的なことだが、我が同級生や恩師の名前の記載があった。津軽、弘前出身の方には、知人を見つけられることもありそうだ。

発行―2015年6月  
発行所―(有)北方新社  
TEL0172・36・2821  
定価―1,800円+税

(斎藤光雄 記)

